

【基調講演】

「日常生活を民俗学はどのように捉えてきたのか

—「海女という生きかた」をめぐって—

◆小島孝夫(成城大学文芸学部・教授)

【事例報告】

—文化財レスキューから民俗研究へ—

「気仙沼市小々汐・尾形家の物質文化からみえる地域」

◆葉山茂(国立歴史民俗博物館・特任助教)

「牡鹿半島の海の技術とそれぞれの人生」

◆加藤幸治(東北学院大学文学部・准教授)

「志津川湾の暮らし

—民具から見えてくるもの、民俗から見えてくるもの—

◆小谷竜介(東北歴史博物館・学芸員)

シンポジウム

海と向き合う人々の  
民俗学

入場無料

海と共に生きてきた人々の姿に  
思いをはせてみませんか。

概要

世界三大漁場のひとつに数えられることもある「三陸沖」は、寒流と暖流がぶつかり合うことから  
豊富な海洋資源をたたくホトスポットです。  
その南部にあたる宮城県の牡鹿半島から気仙沼にかけての沿岸部の集落では、  
漁業や養殖業、捕鯨業、水産加工業などが発達してきました。  
今回のシンポジウムでは、海と向き合う人々の、くらしや人生を民俗学から  
どのようにとらえられるかを切り口に、  
これからの三陸の海の文化の研究を展望してみたいと思います。

定員:120名 ※当日整理券を配付

※展示終了後、展望棟ギャラリーにて、東北学院大学の学生による連携展示「牡鹿半島・海の暮らしの風景」の解説案内

開催日:平成26年10月25日(土) 13:30~16:00(13:15開場予定)

開催場所:宮城県慶長使節船ミュージアム  
(サン・ファン館)セミナールーム

●主催:公益財団法人慶長遣欧使節船協会 ●共催:東北学院大学博物館 ●後援:宮城県、石巻市、石巻かほく、石巻日日新聞社、ラジオ石巻FM76.4

